

■ウインドウズ オブ Wind (風の窓)

JWPA 台湾洋上風力視察の報告

ベーカー&マッケンジー法律事務所 再生可能エネルギーグループ代表・パートナー弁護士
江口 直明

電話番号 03-6271-9441、naoaki.eguchi@bakermckenzie.com

1. はじめに

日本では、洋上風力発電の実績・知見が少ない。洋上風力の施工の現場を見ることは、日本に洋上風力を導入するうえで貴重な経験となることから、日本風力発電協会（JWPA）では、日新航空サービス(株)、(株)ウインドパルの協力を得て、2019年9月1日からの台湾の洋上風力の工事の視察を企画した。台湾の洋上風力視察が、参加者の業務の遂行の参考となることを期待するものである。

2. 視察場所

- 台湾 Formosa 1 Phase 2 洋上風力サイト (6MW ×20 基) 添付1 参照
- 台中港 (タワー・ナセル・ブレードの積出ヤード等)

3. 参加者

- JWPA 会員企業：18 社 18 名
- 日新航空サービス(株)：東京 1 名、台湾 1 名
- (株)ウインドパル：東京 1 名、台湾 2 名
- 団長：ベーカー&マッケンジー法律事務所 江口 直明 弁護士

4. 工事の進捗状況

- Formosa 1 Phase 2 (SGRE 6MW×20 台、離岸距離 2~6km) は、8月30日現在、モノパイル設置完了、タワー・ナセル 8 基設置。
- 建設作業は丸紅/Seajacks の Zaratan (800 t 吊) が風車 2 台を搭載して、約 5 日のサイクルで台中港と洋上サイト (約 60km) を往復している。

5. 視察概要

- 9月2日(月)は、海上からの現地視察で、16人乗りと8人乗りの2隻に分かれて乗船。船着場から洋上サイトまでの乗船時間は約45分(片道)。Zaratanによる風車の設置工事を視察。写真1、表1、添付2参照。

- 9月3日(火)は、Siemens Gamesa RE、Fairwind とのミーティングの後、台中港の Formosa 1 Phase 2 プロジェクトの積出ヤード (タワー、ナセル、ブレード) 等を視察。



16人乗り



8人乗り

写真1 海上からの視察に用いた船舶

6. 視察のスケジュール

視察のスケジュールを表1に示す。

表1 視察スケジュール

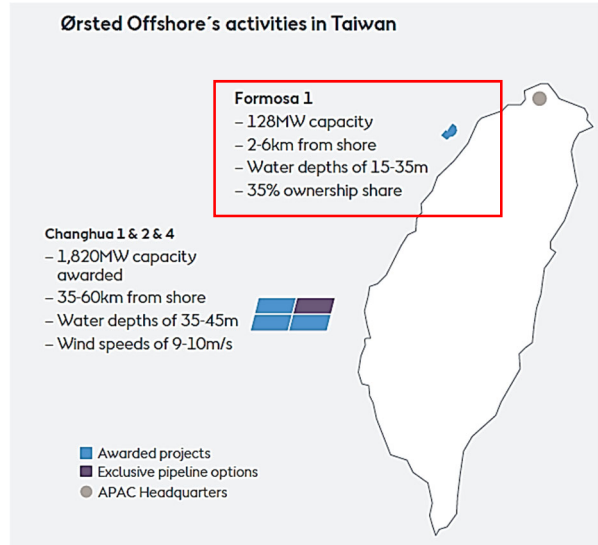
日程	内容
9月1日	羽田空港から台北松山空港
9月2日	台北から台中に移動 Formosa 1 Phase 2 洋上サイトの視察
9月3日	Siemens Gamesa RE/Fairwind とのミーティング 台中港視察
9月4日	台中から台北へ移動 台北松山空港から羽田空港

Formosa 1 Phase 2 洋上風力発電所の概要 【添付1】

項目	内容
発電所出力	120MW
風車	SWT-6.0-154×20 基
離岸距離	2～6km
水深	15～35m
TP	重量：約 465 t
モノパイル	重量：752～1230 t 直径：8.4m（最大） 長さ：60.1～79.5 m.
運転開始	2020 年
事業者	Formosa 1 Wind Power Co. Ltd. Ørsted (35%), JERA (32.5%), Macquarie Capital (25%), Swancor Holding (7.5%).

TP：トランジションピース

出典：Ørsted HP Jan De Nul HP



出典：Ørsted' s perspective on offshore wind in Asia (EU Japan Energy Business Summit) April 2019

視察場所の写真 【添付2】



台湾周辺の風況（2019.9.2 11:50）earth <https://earth.nullschool.net/jp> 【添付3】

